

あだたら

特集
世界で学ぶ 世界を学ぶ
世界に学ぶ



黄鶴楼より長江大橋を望む (武漢)



視察先の紅丹丹にて、福島産の土産赤べこを贈呈 (北京)



少数民族である土家 (トウチャ) 族の踊り

平成21年度 教師海外研修中国研修 実施報告

教師海外研修とは、国際理解教育・開発教育に取り組んでいる小・中・高等学校の先生方を対象にした研修プログラムです。開発途上国の置かれている現状や、日本との関係、国際協力への理解を深めていただき、次世代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的としています。



湖北民族学院の学生と意見交換の様子



湖北民族学院のホームページに今回の研修の記事が掲載されました。



訪問地	内容
北京	JICA 北京事務所表敬 【有償資金協力】北京市下水道処理場建設事業 国際交流基金勉強会参加 JICA ボランティアと交流 【草の根技術協力】紅丹丹訪問※ 【技術協力】安全生産プロジェクト視察 【施設見学】故宮博物館、市場視察
武漢	【有償資金協力】湖北省植林プロジェクト視察 華中師範大学学生と交流 (元福島県国際交流員、呂先生と面会)
宜昌	宜昌市内視察 (市場、三峡ダム等)
恩施	【ボランティア事業】青年海外協力隊板井隊員の活動先視察 (職種：看護 場所：湖北民族学院) 【ボランティア事業】青年海外協力隊矢部隊員の活動先視察 (職種：日本語教師 場所：湖北民族学院 元福島県国際交流員、蒙先生と面会)
上海	上海市内視察 日系企業訪問等 福島県上海事務所表敬

※視覚障害者のための活動を行っている中国の NGO

今回、中国でさまざまなことを感じてきました。見たことのあるマーク、テレビなど日本と同じ部分を見つけると、なぜか安心できました。反対に日本にはない物や風習はどれも興味深く感じました。

また、青年海外協力隊の方たちが現地の人からの信頼を得ていきいきと活動している様子が印象に残りました。

同じ部分で繋がり合い、違う部分を知ることによって自分を広げて相手を尊重していけるように、子どもたちに伝えていきたいと思います。

(桑原綾子
福島県立富岡養護学校教諭)



かえるの揚げ物とご飯

三峡ダム見学の帰り、巡回バスがなかなか来ないので大勢の人がバスを待っていました。

やっと来た1台のバスに人々が殺到。後から乗り込んだグループは席がないので立って乗ろうとしたのですが、規則では乗ることができません。係員との問答が続きバスは発進できないでいました。そのとき何人かの若者のグループが、「私たちが降りよう」と代わりに降りたのです。その後バスは30分遅れで出発しました。これが、私が見た中国民衆の姿です。

(高田 昌幸
南相馬市立大甕小学校教諭)



三峡ダム

研修を終えて、自分が五感で感じた現在の中国の様子を教科や道徳の授業などで伝えていきたいと思っています。

事前に生徒に質問した中国のイメージを実際との共通点や相違点を明らかにしながら、国同士の関係も、身近な人間関係も似ていること(国人も長所もあれば、短所もあるので一面だけでは判断できない。だから、お互いがお互いを認め合うことが相手を知る第一歩になる)を理解させるような切り口で授業を行いたいと思います。

担任としてキャリア教育へも生かしたいと思っています。

(村松和弘
柳津町立柳津中学校教諭)



黄鶴楼から武漢市内の風景

この度の研修では大変お世話になりました。「汚くて、古くて、おかしな国」、悲しいことにこれが中国へ行く前に私が持っていたイメージです。しかし、実際に行ってみて、「懐かしくて、熱心で、おもしろい国」に変わりました。古き良き伝統が今でも受け継がれていて、どんなことにも情熱を持っていて、それでいて独自の文化を持っている、魅力的な国でした、本当にまた行ってみたいと思います。

また、実際に行ってみないと分からない国です。国際理解とは、相手を通して自分も学ぶ貴重な機会であると感じました。

(齋藤央顕
会津若松市立門田小学校教諭)



恩施市内にて遊具で遊ぶ子供

福島県二本松市立下川崎小学校 第6学年担任 佐久間敏男さん

日時：2009年9月24日(木) 10:30～11:30

授業タイトル

「国際理解・四川大地震の時に～私達にできること～」



▲ 熱心に教える佐久間先生

佐久間さんは中国での研修中、2008年に起きた四川大地震の時の日本の医療チーム・捜索チームの活躍（国際緊急援助隊）をまとめたDVDを見たそうです。その内容に大変感銘を受け、感動を子どもたちに伝えたいと思い、今回の授業へとつなげました。

初めは、募金って、いつ、なんのためにするもの？という問いかけに自由に答えていく子どもたち。そのあと教室に設置されているインターネットを使用して、実際にどれくらいの被害があったのか、概要を勉強しました。

続いて、四川大地震救助のDVDを見ました。そこで心に残ったことや、感じたことをメモし、皆で発表しながら共有します。最後に、自分のお友達が被害にあったらどうするか、困った人がいたらどうするか、と自分の身に置き換えて、何ができるかを考え、話し合いました。

授業の最後、まずは「知る」ことから始めようという先生の呼びかけに子どもたちは大きくうなずき、この授業をきっかけに変化を感じたようでした。



▲ 階段の踊り場には、中国の情報がびっしり

子どもたちの声

《四川大地震救援のDVDを見て》

- ・日本人の外国での活動がわかりました。思いやりの精神を大切にしたいと思います。
- ・日本と中国は昔戦争をしていたのに、助け合っていたことが心に残りました。
- ・自分のことだけでなく、周りのことを考えることが大事だと思いました。
- ・同じ地球に住む人だから、多くの人を助けたいと思います。

《佐久間先生から中国のことを学んで》

- ・自分も中国の文化などを学んでみたいと思いました。
- ・中国で買い物をしたり、おいしい食べ物を食べてみたいと思いました。



来年統合となるこの小学校の6年生は、全員で8人。全校生徒は44人と、小さいけれど自然豊かで温かい雰囲気のある学校です。

JICA 国際協力 中学生・高校生 エッセイコンテスト2008

中学生の部 審査員特別賞 サクラ エステルさん (桜の聖母学院中学校 受賞当時第1学年、現在第2学年)

副賞 マレーシア海外研修 日記 7月23日(木)～7月30日(木)



Q 一番何に驚きましたか？

A 暑い日も寒い日も水のシャワーで冷たかったことや、建物のガラスが緑色だったこと。

Q 一番楽しかった経験はなんですか？

A 現地の人や子どもと遊んだり、川に入ったり、バドミントンやバスケットボールをしたこと。

Q 日本と大きく違うと感じた点はありましたか？

A 訪ねた学校が全寮制で、授業は午前と午後の2部制だったこと。皆掃除洗濯など、自分のことは自分でやっていた。朝ごはんがご飯ではなく、紅茶とクッキー、そのクッキーがとてもおいしかった。

Q 日本と同じだと思う点はありましたか？

A 子どもたちの笑顔や行動は、どこに行っても同じでかわいい。

Q 現地の人と接してどうでしたか？

A 言葉が通じないのに、一生懸命話を聞いてくれてとてもうれしかった。

Q 一緒に行ったメンバーとはどのように協力しましたか？

A リーダー的な人が、体調悪くなった人など皆に気を配ってくれてとても助かった。夜に集まって話をしたり、ゲームをしたりして仲良くなり、今でも連絡を取り合っている。



▲ シブ市内の様子

さんぽごとが
変わった!

行って本当によかったと思う。人に合わせるのではなく、自分の意見を主張できるようになった。現地でも、初めは周りに合わせる日本と同じ生活をしていたが、お金を使うときや現地の人と遊ぶときなど、次第に自分はこうしたい、と主張することでより滞在が楽しめるようになった。

感じてみよう！地球のあちらこちら。仲よくなるろう！世界のともだち。 JICA 二本松オープンハウス / 地球体験キャラバンスペシャル 2009

様々な国から来た JICA 海外研修員と一緒に学び、楽しもう！

日時：平成 21 年 8 月 2 日(日) 10 時～ 15 時
場所：JICA 二本松 参加者：計 65 名
主催：JICA 二本松、ふくしま青年海外協力隊の会



全身を使っのコミュニケーションを学びます▶

小中学生を対象に、県内に住む青年海外協力隊 OB/OG が派遣された国の文化や遊びを紹介するイベントです。保護者用の講座も設けました。



▲ 研修員も参加者と一緒に輪になって踊ります。



▲ アフリカのたいこ、ジャンベの演奏を楽しむ参加者

こんなことがわかった！

- ・ いろんな言葉がある
- ・ 言葉がなくてもわかりあえる
- ・ 数の数え方
- ・ 自分の価値観と偏見
- ・ いろんな事情の国がある

※アンケート結果より

これからこんなことをしてみたいになった！

- ・ 世界の人と話したい (英語を勉強する)
- ・ 外国の人と遊びたい (鬼ごっこ)
- ・ 世界の人のために身近なボランティア
- ・ 外国の人との交流
- ・ いっしょに工夫して遊びたい

※アンケート結果より

こんなうれしい再会もありました・・・

ふくしま青年海外協力隊の会上野健一さん (福島県立坂下高校 教諭)

私が二本松工業高校の担任をしていたときの卒業生が、なんと子どもを連れて参加してくれました。あまり乗り気でなかった子どもに、親である彼女が行ってみよう！と言って申し込んだといいます。彼女の結婚式に恩師として招待されたとき以来の再会となりました。そのときは通じるかどうかかわからないけれども、わかってもらえるときが来ることを信じて話をすることは、必要であり大切なんだと今回のつながりを通して、改めて思いました。

その思いを行動へ！

ユース国際協力ミーティング 2009

『知る』 Know ⇨ 『考える』 Think ⇨ 『行動する』 Act!!

日時：平成 21 年 9 月 12 日(土) 10 時～ 13 日(日) 15 時
場所：JICA 二本松 参加者：計 26 名
主催：JICA 二本松、福島県
協力：ふくしま青年海外協力隊の会



国際協力力川柳

「ユース国際協力ミーティング」に参加した高校生全員が詠んだ句の中から、各参加校を代表する作品をご紹介します。

(選首 (財) 福島県国際交流協会 五十嵐専務理事)

- 今すぐにはできることから始めよう
- 平和とはみんなの笑顔映すもの
- 世界とのつながり感じ生きていこ
- 助け合う全員で動くひとつの輪
- できることいっぱいあるよ私にも
- まず知ろう平和の道への第一歩
- 伝えよう学んだことを未来へと
- 自分から発信していく国際貢献
- 知ること世界を変える明日がある
- 知りましたたくさんさんの事たくさんさんの考え
- 超充実 視野広がった二日間

- 須賀川高校 三年
- 双葉高校 三年
- 郡山高校 三年
- 保原高校 三年
- 光南高校 三年
- あさか開成 一年
- 保原高校 三年
- あさか開成 一年
- 富岡高校 一年
- 光南高校 三年
- 富岡高校 二年

高校生を対象に、ゲームやディスカッションなどを通じて、国際協力やボランティアについて理解を深めるセミナーです。

《参加者の声》

- ・ 国際協力にとっても興味がわいた。
- ・ 考えて行動できるようになった。
- ・ 食べ物を残さないようになった。
- ・ 世界について前よりもっと考える幅が広がった。
- ・ とても楽しい2日間だった。
- ・ 自分の生きている世界を改めて見直すことができた。
- ・ いろいろな考えを聞いて、いろいろな視点から物事を見ることができた。
- ・ 自分にできることがたくさんあるということに気付いた。
- ・ 小さなことでも世界の役に立てる仕事をしたたいと感じた。

※アンケート結果より



▲ 開会式



▲ グループで協力して作業しています。



▲ 元協力隊員による国紹介と体験談コーナー

異文化の眼 [第5回]



クメール語 (カンボジア)
語学講師 ヘン ソムナン

私の名前は、ヘン ソムナンです。カンボジアのコンボンチュナン州サラレークプラム村で生まれました。近年、カンボジアは、アンコールワット遺跡やクメールルージュ (ポルポト) によって知られるようになりました。

わたしの故郷は、豊かな種類の川魚が生息するトンレサップ湖やパーム椰子砂糖の産地でよく知られています。村の人口は、約2100人です。人々は農業 (米、野菜) をし、トンレサップ湖で漁をして生計を立てています。村の生活は、とても質素で、電気はすべての世帯には通っていません。村人は、お互いの家族のことをよく知っています。

私は、2008年4月からクメール (カンボジア) 語の講師としてJICA二本松に赴任しました。私は、歴史、文化、社会、言語を学ぶのが好きです。二本松市の私の第一印象は、とても衛生的で美しいことです。二本松の桜はとても美しく、月明かりの散歩にとっても良いものです。桜の時期は、他

から観に来られた人々を見かけます。二本松は、智恵子の生家や霞が城などの歴史的な場所が生活の中に色濃く残っています。霞が城は、江戸時代の歴史を知るうえで興味深い場所です。また、二本松の提灯祭りは、とても活気があり、多くの人々で賑わいます。先祖伝来の伝統を重んじ、多くの家族が協力しあい人々の交流の場にもなっていることがよく分かります。二本松は、小さな街ですが、歩ける距離にスーパーや病院などありとても便利です。15分も歩けば、大変おいしい食事でもできます。私の日課は、クメール語を教えた後、家から駅まで散歩することです。散歩の道のりは、とても安全に歩くことができます。充実した毎日です。これからも、私は、クメール語を通してカンボジアの理解に努め、日本の文化や習慣を学んでいきたいと思っています。

カンボジア Data

面積：約181035万平方キロメートル
人口：約13.4百万人 (2008)
首都：フノンベン
言語：カンボジア語
通貨：リエル



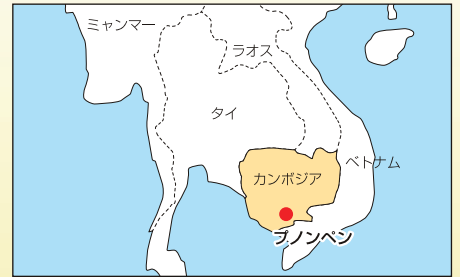
▲ 田植えの様子



▲ 収穫の時期



▲ 緑がどこまでも続くのどかな風景



福島県在住 OB OG 体験記 [第6回]

今を大切に ~ベトナムの生活で学んだこと~

美術の授業の様子▶



◀ 音楽の授業の様子



平成19年度第1次隊 ベトナム・養護
榊原 裕子 (白河市在住)

現職教員特別参加制度を利用した榊原さんは、帰国後の現在も、引き続き福島県立西郷養護学校の教諭を続けていらっしゃいます。

授業中教材を広げると、思わず立ち上がって見る子どもたち。休み時間に私の前に来て「この勉強したんだよね。」と学習したことをして見せてくれる子どもたち。私は、ベトナム中部のダナン市立トゥオンライ特別支援学校で音楽の授業を中心とした活動を行ってきました。子どもたちの知りたい、学びたい、そんな気持ちをたくさん感じることでできた2年間でした。

ベトナムでも9年間の義務教育制度がありますが、障がい理由に学校で教育を受ける機会が与えられていないお

子さんもいます。そのようなご家庭を訪問した際に、「教育を受けさせたい」という保護者の方の切実な願いと、短い出会いの中でも期待感をもって接していた子どもの姿に、教育の必要性と教員の仕事の重みを感じました。帰国した現在「教員として目の前にいる子どもたちの生活が充実できるように支援していくこと」が、私の課題です。一つ一つの実践の積み重ねが、子どもたちの豊かな生活につながると信じ、今日も授業に励んでいます。

JICA 二本松でインターン！1ヶ月のお仕事体験記

国立福島工業高等専門学校 ビジネスコミュニケーション学専攻科 1年 藤島 杏菜さん

私は、青年海外協力隊二本松訓練所（NTC）にて、1ヶ月間のインターンシップをさせていただきました。こちらの宿泊施設にて青年海外協力隊とシニア海外ボランティアの方々（以下JICAボランティア）と寝食を共にするという貴重な体験も経験することができました。



▲ 訓練所内にてデスクワークをする藤島さん

〈インターンを通して感じたこと〉

インターンシップを通して、初めて耳にする国名があったり、世界の国々の状況や協力隊員としての経験談を聞いたりする中で、自分がこれまでいかに偏った視点から世界を見ていたのか、日本人の暮らしはいかに世界に依存しているのかということを知らされました。

また、国際協力の必要性、重要性を改めて感じました。こちらでの1ヶ月間は、私にとってとても充実した、有意義な時間であり、素晴らしい人々と出会い、本当に多くのことを学ばせていただきました。

そして、私も将来、協力隊として活動してみたいと思うようになりました。何も分からない私に親切にご指導くださり、1ヶ月間を実り多いものにしてくださったスタッフの方々、ボランティアの方々から感謝しております。

〈ボランティアの所外活動を視察して〉

訓練の一環として、周辺の保育施設、福祉施設、農家などで日常業務を体験する所外活動というものがあります。「普段とは違う環境でどのように人々と関わり合い、相手の役に立てるか」について実践を通して考えることを目的とし、実施して終わりではなく、皆で活動を振り返ることで、派遣先で活かせることや心構えなどを学び合います。

受け入れ先の一つである武藤園芸の武藤さんによると、ボランティアの印象は、とても積極的に自発的、頼んだ仕事はしっかりとこなすことだそうです。菊の苗の植付け作業を通じて、派遣先で出会う人とコミュニケーションをとるきっかけを学び、ボランティアされる側の気持ちを理解してほしいとお話いただきました。



▲ JICA ボランティア受け入れ先の武藤園芸にて（前列右端が武藤さん、2番目が藤島さん）



◀ あんまを学んでいる様子

〈ボランティア有志による生活技法・日本文化〉

ボランティアの中から有志が講師となり、得意分野を活かして行う「生活技法・日本文化紹介」という講座もあります。

任国で役立つ生活上の知恵・技術・日本の文化について実践を通して理解することが目的で、今回は散髪、あんま、書道など全13講座が開かれました。

にほんまつ地球市民の会 JICA 理事長表彰 受賞



▲ 緒方貞子理事長から賞状を受け取る三保恵一会長

にほんまつ地球市民の会は、JICA二本松青年海外協力隊訓練所が設立された1994年に発足し、これまでの15年間に、同訓練所で訓練を受けるJICAボランティアに対する支援や市民との交流、サウジアラビア、モンゴル、英語圏アフリカ、ベトナム、ブータン等からの青年研修の受け入れなどでも活動が評価されて表彰されることになりました。

■ JICA 理事長表彰とは・・・

JICAが行う国際協力事業に長年にわたって貢献・協力し、途上国の人材育成や社会発展に尽力した個人・団体の功績を称えるものです。

■ にほんまつ地球市民の会とは・・・

JICA二本松が設立されたのをきっかけに、市民を挙げて訓練所をバックアップするとともに、国際理解・交流を深めることを目的として設立されました。

福島県出身のJICAボランティア

平成21年度第3次隊（二本松青年海外協力隊訓練所）

派遣国26カ国 計202
名のボランティアが10月
8日（木）に派遣前訓練を
開始しました。

世界中の人々に、ほんとうの愛を送りたい・・・

JOCV 黒田 高史
出身地：会津美里町
派遣予定国：ザンビア
職種：理数科教師



今回、機会を得られたことを大変、嬉しく思っています。今後の多くの人との出会いがとても楽しみです。感謝の想いを忘れずに、まずは訓練所で仲間と共に学び、そして任国で精一杯、活動できるよう準備したいです。

JOCV 穴澤 ともよ
出身地：福島市
派遣予定国：タンザニア
職種：村落開発普及員



訓練所での生活にも次第に慣れてきました。毎日、語学クラスや国際協力などに関する講座があり、忙しいですが、とても充実しています。また、職種も経験も様々な仲間と一緒に訓練を受けていて、大変刺激を受けます。タンザニアでは県庁の地域開発課に派遣される予定です。新規の要請ということもあり、多少心配はありますが、自分に出来ることから少しずつやって行きたいと思っています。



JOCV 飯塚 大成
出身地：富岡町
派遣予定国：ラオス
職種：村落開発普及員



訓練所では、年齢、職種、派遣国を問わず青年海外協力隊もシニア海外ボランティアも、いっしょに学んでいます。皆国際貢献をしたい、自分の経験を生かしたいという熱い気持ちを持っており、そんな方たちの影響を受け、私自身もよりいっそう“地球市民としてできることをしたい”と思うようになりました。訓練は厳しいのですが、同じ志を持った仲間との課外での付き合いも通して、任地での活動へ向けて日々楽しく学んでいます。

JOCV 能登 淳和
出身地：いわき市
派遣予定国：タンザニア
職種：PCインストラクター



PCインストラクターとしてタンザニアへ派遣予定です。私たちは今、任国での2年間の活動を有意義にする為に必要な心構えや知識・技術などを訓練所で学んでいます。この機会を与え、応援してくれる全ての人たちに感謝しながら、訓練所での生活を一日一日大切にしていきたいと思っています。

駒ヶ根訓練所福島県出身 JICAボランティア

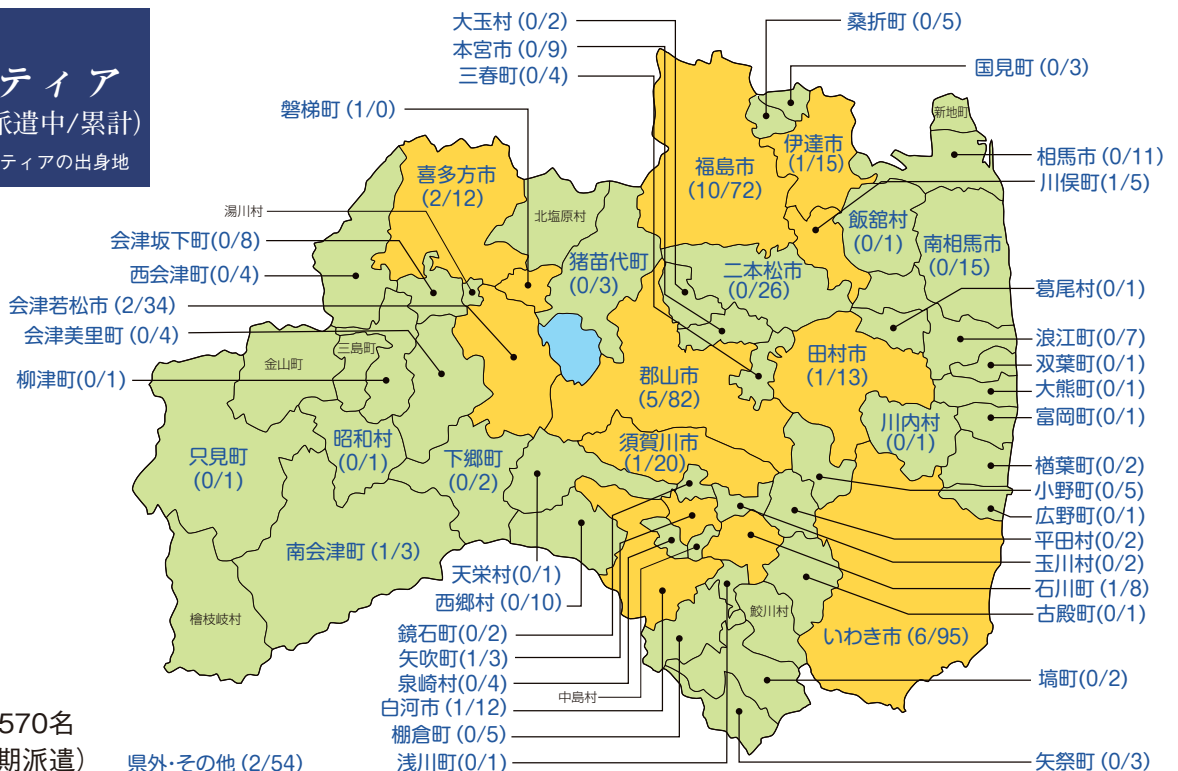
(出身地/派遣予定国/職種)

- SV 永田 豊照 (いわき市/トンガ/養殖)
- JOCV 高畑 奈美 (会津美里町/ニカラグア/小学校教諭)
- JOCV 岩谷 良恵 (三春町/ボリビア/村落開発普及員)
- JOCV 生田目珠美 (塙町/モルディブ/理学療法士)
- JOCV 江尻浩二郎 (いわき市/キルギス/青少年活動)

福島県出身 JICAボランティア

2009.10.30現在（派遣中/累計）

黄色：派遣中ボランティアの出身地



合計 派遣中35名/累計570名
(含む短期派遣)

県外・その他 (2/54)

11月～2月の イベント情報

11月 9日(月)	JICA海外ボランティア 平成21年度秋募集 応募締め切り
11月 24日(火)	ふくしまグローバルセミナー2009 申し込み締め切り
12月 10日(木) 12月中旬	平成21年度第3次隊 派遣前訓練終了 平成21年度第3次隊 出身地自治体 赴任前表敬挨拶
12月 12日(土) ～13日(日)	ふくしまグローバル セミナー2009 <small>←右にポスター</small>
1月 7日(木)	平成21年度第4次隊 派遣前訓練 入所式
1月 1月	JICAボランティア帰国報告会(予定) 教師海外研修実践報告会(予定)
2月	JICA国際協力 中学生・高校生 エッセイコンテスト2009 入賞者授賞式 (予定)

FUKUSHIMA GLOBAL SEMINAR 2009

ふくしまグローバル セミナー2009

**ふくしま
グローバルセミナー
2009**
JICA二本松で世界を学ぼう。

参加費無料!

- ① 12月12日(土)～13日(日)
- ② JICA二本松 www.jica.go.jp
- ③ 一般 要申込
- ④ 150名
- ⑤ 会場 11時24分前必着
- ⑥ 入場費 5,000円 定額 3,000円

主催 福島県国際課
協賛 JICA二本松 福島県国際課
後援 福島県国際課 福島県国際課

お問い合わせ先
JICA二本松 国際課 電話 0243-24-3200
FAX 0243-24-3214
E-mail jicanjv@jica.go.jp
http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/

「ふくしまグローバルセミナー2009」は、国際交流・国際協力・他文化共生・国際理解教育・開発教育についての参加型セミナーです。外国出身者などによる母国紹介や国際協力現場レポートなど20を超える幅広い内容の講座があります。

※詳しくは、福島県国際課のホームページをご覧ください。



▲ JICA 二本松訓練所にて 左から3番目が斉藤所長、その右となりが郡山青年会議所幕田理事長

世界の笑顔プログラム贈呈式

日時：9月18日(金) JICA 二本松 10:00～11:30
鍵盤ハーモニカとリコーダー⇨
福島県会津若松市出身 石川 友美さん 他のもとへ

東北のウィーン“楽都”郡山をかかげる、福島県郡山市にある社団法人郡山青年会議所の皆さんが、市内の中学校の生徒や父兄に呼びかけ、鍵盤ハーモニカとリコーダーを集めてくださいました。その数合計330個。青年海外協力隊員として現在バヌアツで活動している石川さんと子どもたちのもとへ、「ふるさと心のプレゼント」として届くことでしょうか。今後もこのような地元で根ざした活動を継続し、互いに協力していくことを確認しました。

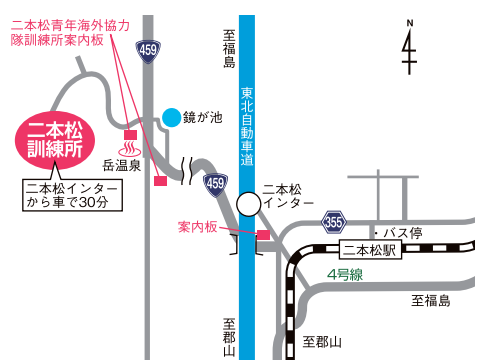


▲ 福島県文化センターにて NPO 法人地球のステージ代表理事桑山紀彦氏

秋募集報告 地球のステージ 協力隊版との合同開催

日時：9月27日(日) 福島県文化センター 10:00～12:30

- プログラム
1. 主催者挨拶 (JICA二本松斉藤所長)
 2. 地球のステージ
 3. JICAボランティア活動紹介DVD上映
 4. 応募についての概要説明
 5. 個別相談
- 当日は、幼児からお年寄りまで幅広い年齢層の100名近いお客様に来ていただきました。募集説明会と地球のステージの合同開催という初の試みでしたが、ボランティア活動のイメージがしやすいという声もあり、好評でした。



JICA二本松へのアクセス

**独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所**

E-mail : jicanjv@jica.go.jp
〒964-8558
福島県二本松市永田字長坂4-2
TEL : 0243-24-3200
FAX : 0243-24-3214

※皆様からのご意見等をお待ちしております。
◆本誌、バックナンバーがご覧になれます...
URL <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

